

4/15(日) 第12回 柏木隆雄 文芸講演会 (放送大学と共催)

今回のテーマは「映画と文学—黒沢明とバルザック」

12回を迎え、近年ますます関心の高まる柏木先生の文芸講演会、今回も放送大学三重学習センターとの共催で、下記のように開催します。一般公開、入場無料です。多数ご来場ください。

日 時：4月15日(日曜日) 午後2時～4時
会 場：三重県総文・生涯学習センター中研修室
演 題：映画と文学—黒沢明とバルザック
講 師：柏木隆雄先生 (大手前大学・副学長、フランス文学)

講師のひとつこと…映画と文学とは、原作とシナリオの相違も興味深いけれど、黒沢が好んで描いた世界と、近代小説の完成者としてのバルザック「人間喜劇」とを比べると、さらに面白いことが見えてくる。小説と映画の魅力を探ってみましょう。

2011

11/5 緑ヶ丘特別支援学校の文化祭で「フランス発表」

県内で唯一、病気治療中の子どもたちの教育に携わる県立緑ヶ丘特別支援学校(津市大里町)で昨秋11月、「世界はひとつ、広げよう 絆の輪」をテーマとする文化祭が行われ、児童、生徒たちが、風俗、音楽など広く世界の文化を紹介するさまざまな企画を展開しました。その中で中学部1年1組は「フランス発表」の計画に取り組み、フランスの地勢、観光名所、お菓子(試食コーナーも)、絵本から競馬にいたるまで、たくみに工夫した展示を紹介していました。三重日仏協会も三色旗など手持ちの資料や、グットマン家の絵本、漫画などフランスの本をお貸しすることでこれに協力しました。



展示の一部から

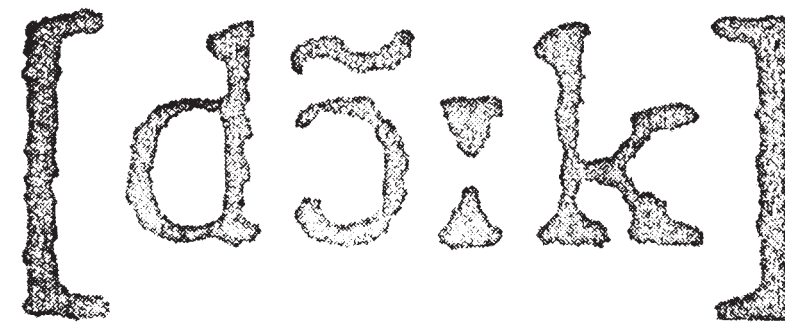
11/8 第2回「渚のサロン」20数人が参加

津市阿漕浦海岸に面したグリソビルの1室をお借りすることでスタートした「渚のサロン」、第2回は昨秋11月8日夜、三重大学人文学部准教授ティエリー・グットマンさん(本会常務理事)をお招きしました。先生は日・米・仏の豊富な事例に基づいて、宗教と政治の密接な関係について話され、会場からも活発な質問や意見が交わされました。20数名が参加、あとは先生を囲んで食事とワインで遅くまで楽しい懇談が続いていました。

◆ 2012フランス語入門講座は5月7日から ◆

ジャン・フランソワ・ダムム先生(三重大学フランス語講師)による恒例の入門講座を下記のように開催します。新しくフランス語を習いたい方、かつて習って復習したい方、フランス旅行を計画している方など、ふるってご参加、ご紹介ください。

日 時：5月7日(月)から毎週月曜日 計8回 いずれも午後6時～7時
場 所：津駅前第1ビル6階会議室
受 講 料：1万円
申し込み：090-4867-1476 (滝澤まで)



DONC どんく

N°93 janvier 2012 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418
418, Komei-cho Tsu-shi
TEL 059-226-2766
FAX

在京都フランス総領事館

フィリップ・

ジャンヴィエーカミヤマ

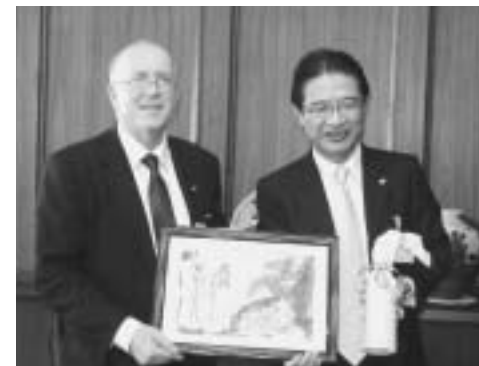
総領事より新年祝詞

このほか、アリアンス・フランセーズ愛知フランス協会 ジョゼーマリ・コルテス館長、TV5MONDE日本、アルザスのEICHER夫妻からも新年の祝詞を頂戴しました。



ジャンヴィエ総領事が津市を表敬訪問

昨秋11月17日、フィリップ・ジャンヴィエ仏総領事が津市の前葉泰幸市長を表敬訪問、相互の経済・文化の状況などについて英語で親しく懇談しました。三重日仏協会ではこの機会に役員や在県フランス人を中心に歓迎昼食会を催しましたが、さらに創立25周年を迎える2012年度の総会には、ご夫妻おそろいで列席されるよう要請しました。



総領事と前葉津市長



総領事を囲んでの昼食会

「南仏スケッチ」

月 輪 清

高校美術教諭の定年退職を機に、2011年4月より南仏アルプ・ド・オート・プロヴァンス県の都市マノスク（Manosque）の語学学校 CIL (Centre International des Langues) に通い周辺各地の見学とスケッチ取材をしてきました。学校ではビギナーの私にすべて個人指導で親切丁寧に教えて頂きました。6カ月間の予定を終え、現在はパリのアパートに住み美術学校で絵の勉強をしています。南仏にしたのは三重日仏協会の招きで来日したことのあるマルセイユの画家アルランディスのもとを9年前に訪れ、この土地に親しみを感じたことがきっかけです。マノスクはAIX - TGV駅からバスで50分、人口2万人ほどで旧市街地にはロマネスク様式の教会があり緑が多く落ち着いた町です。『木を植えた男』『河は呼んでる』などの作家ジャン・ジオノの故郷としてフランスではよく知られています。東にデュランス川が流れ肥沃な農業地帯にはリンゴ、桃などの果樹園、穀物畑、オリーブ畑、ブドウ畑が広がり、郊外に出ると緩やかな丘陵地に羊や牛が放牧されのどかな景色が見られます。学校のExcursionでは各地を訪れました。フランスで最も美しい村の一つといわれる Lourmarin、チーズで有名な Banon、丘からの眺めが美しく大きなマルシェのある Forcalquier、オリーブオイル造りの Volx や L'occitane の本社工場、セザンヌの家のある学術都市 Aix-en-Provence、険しく不思議な峡谷のある Moustier sainte Marie や Le Mees、赤土の大地 Rustreel、由緒ある古城の Château d'Ansouis、修道院を改修したアートギャラリーと植物園のある Salagon や小高い山上にひっそりと立つ Ganagobie の修道院（礼拝堂のモダンなステンドグラスがとても美しい）、プロヴァンスワインで有名な Pierrvert、ブドウ畑とワイン醸造の Château Dorgonne、ラベンダー畑の Valensole。春から夏の日中の太陽光は強烈で、当初私は眩しくて普通に目を開けてられないほどでした。5月のコクリコの真紅の絨毯、6月の刈り取り前のラベンダーの匂い立つコバルトブルー、7月の果てしなく広がる黄金のひまわり畑、自然が織りなす色彩の饗宴を目の当たりにすると、ゴッホやマチスがこの南仏の光を求めてやってきた理由がよく分かります。 스튜디오では自炊生活でしたが、マルシェや店舗の食材は豊富で特に太陽の恵みをいっぱい受けた野菜や果物はおいしくしっかりとした味わいでした。お世話になった大家さん夫妻は築70年という茜色の南欧風でおしゃれな家にお住まいで、5月には赤やピンクのバラの花で囲まれていました。広々とした庭と自家菜園があり、巨大なヒマラヤ杉や鈴なりのサクランボの木がありました。引っ越しの日、ディナーに招待され、庭の大きな菩提樹の木陰で頂

いた地元のロゼ、チーズ、メロン、ハム、オリーブの漬物など格別でした。お孫さんのいるアリス夫人は元スペイン語の教師、私の拙い会話をいつも笑顔で受け止め、そのうち少しの単語ですべて理解してくれました。分からない語句はすぐにメモしてくれて勉強にもなりました。マノスクでは初夏のヴァカンス時期になると観光客も増え旧市街のカフェは連日満員。6月21日を境に暦は夏。fête de la musique で旧市街のあちこちにステージが出来、古くから伝わるダンス、クラシック、ジャズ演奏などで終日にぎわいました。7月は町をあげての展覧会や音楽祭。特設野外ステージで有名なミュージシャンが5日間ライブを繰り広げ、大勢の人で夜遅くまで盛り上がります。これらはすべて市の財政で賄われ無料。多くの体験と出会いで紹介したいことはたくさんありますが、紙面の都合上一つだけ日本人のあゆみさんのこと。学校の先生に紹介されたこの人は10年前フランス留学で知り合った地元のフランス人と結婚され、マノスクからそう遠くないジュークにお住まい。7才の息子さんがいる。マノスクの隣村のサントチュールで開催される La fête des solidarités (連帯のお祭り) に誘われました。そのお祭りのイベント「東日本大震災の被災地に向けての支援活動」のリーダーがあゆみさんでした。彼女は被災地へ粉ミルクや生活用品を送ったり、大船渡市に送るフランスの子供たちの書いた応援メッセージを日本人アーティストの構成で会場に美しく飾ったり、日本人による琴やピアノ演奏、ジャパンコーナーの折り紙などを企画し、在仏日本人と土地の人との連帯協力の輪を広げ大奮闘でした。私はこの素朴な民間支援活動に積極的に参加する異郷で暮らす日本人の姿に感動しました。急きよ私も会場の子供たちに、持参した日本の駒回しを披露し少しお手伝いすることができました。終わりに私事ですが南仏取材やパリでの修行成果の個展を来年津市で開催する予定です。その節はぜひご高覧いただき土産話でも聞いて下さい。



スケッチ 「マノスク旧市街入口のポルト・ソヌリ」